

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1学年は、徐々に基礎・基本が定着してきた。計算では、正答率が9割をこえるものもあった。計算練習を継続し、定着を図る。
- ・2学年は、計算練習に力を入れており、基礎・基本が定着してきた。1学年の基本的な計算では、正答率が89パーセントをこえることができた。計算練習を継続し、2学年で学習する計算問題の定着を図る。
- ・3学年は、基礎問題の正答率がほぼ7割となった。多くの生徒が基本計算や知識問題に自信をもちながら実際に解くことができている。

(2) 課題

- ・1学年は、文章から内容を読み取ることに課題がみられた。また、グラフや図形から情報を読み取る問題にも課題が見られた。文章読解やグラフの読み取りの練習をするとともに反復練習を行い、問題の考え方、捉え方の定着を図る。
- ・2学年は、関数の問題に苦手意識があるとみられる。関数の意味やグラフの書き方等、少人数指導を活かし、1人1人で考える時間を確保したい。
また、図などを用いて視覚的に解説し、式の立て方を指導していく。
- ・3学年は、関数の問題や文章問題への苦手意識があり、記述問題等に丁寧に取り組ませる必要がある。少人数指導を活かし、生徒一人ひとりが考える時間を確保したい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	校内平均正答率は目標値を5.5ポイント、区の平均値を4.8ポイント上回っている。		
第2学年	校内平均正答率は目標値を12.1ポイント、区の平均値を8ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を6.1ポイント、区の平均値を5.3ポイント上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	校内の平均正答率は目標値を8.5ポイント、区の平均値を5.1ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を11.5ポイント、区の平均値を6.1ポイント上回っている。 (第2学年時)	校内の平均正答率は目標値を8.4ポイント、区の平均値を4.5ポイント上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を5.0ポイント、区の平均値を4.8ポイント上回った。小数・分数の項目が、目標値より4.4ポイント上回っているが他の項目より、低い。	区の目標値を7.3ポイント、区の平均値を4.8ポイント上回った。比と比例・反比例の項目が、目標値より5.3ポイント上回っているが他の項目より、低い。	区の目標値を6.9ポイント、区の平均値を4.7ポイント上回った。データの活用の項目が、目標値より1.2ポイント下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を 11.9 ポイント、区 の平均値を 7.6 ポイント上回っ た。継続して、計算練習を行っ ていく。	区の目標値を 12.6 ポイント、区 の平均値を 8.7 ポイント上回っ た。比例・反比例と平面図形の問題に課題がみられた。	区の目標値を 13.3 ポイント、区 の平均値を 8.6 ポイント上回っ た。比例反比例のグラフを選ぶ問題や、式を選ぶ問題では正答率が低くなっている。空間図形も正答率が低く、関数と図形の範囲に課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を 8.7 ポイント上回った。 全国平均正答率を 3.5 ポイント上 回っている。多項式・単項式の計算など基礎基本の計算の定着を図る。	目標値を 7.5 ポイント上回った。 連立方程式の文章問題や1次関数の式からグラフを考える問題に課題がある。	目標値を 6.6 ポイント上回った。 前年度に比べ、証明問題や1次関数の応用問題に対する正答率が向上した。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数・分数などの基礎計算の確実な定着を図る。小テスト、通常授業などで、計算の速さと、確実性を身に付けさせる。	問題を解くときに、先を見て筋道を立てて思考する練習、数式や、文章での説明をしっかりと表記できるようにする。	コロナ禍ではあるが、教えあい学習(グループワーク)を可能な範囲で取り入れる。常に考える姿勢をもたせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
少数・分数などの計算を確実にできるように反復練習を行う。また、関数を理解して扱えるように、復習をしながら指導していく。	関数の式が何を表しているのか考えさせ、ICT 機器を使い視覚的に理解できるようにする。また、図を書くなどして、視覚的に理解できるように解説を行い、式の作り方を指導していく。	問題を解く際に、解き方を暗記するのではなく、どのように考えて答えまでたどり着けばよいかを考えさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単項式・多項式の計算、連立方程式といった基礎基本の計算を復習し、計算力の定着と向上を図る。	授業においてほぼ毎時間、生徒が考える場面を設定する。またペアやグループワークを取り入れ、自らの考え方を広げたり発表したりする時間を取る。	ICT 機器を適材適所で活用し、視覚的に理解を深める指導を行う。また課題を設定し自分なりに考え試行錯誤するような時間を設ける。